

令和6年の新規梅毒報告数～4年連続で過去最多更新～

京都市における令和6年の梅毒報告数は令和5年の110件をさらに上回る**125件(速報値)**で、現在の集計方法になってから最も多く、**4年連続で過去最多を更新**しました。

梅毒は自然には治らず、治療が必要ですが、感染していても症状が軽くなったり消えたりする時期があり、感染していることに気づきにくい特徴があります。また、妊娠中に感染していると、流産や死産、赤ちゃんに重い障害が残ることもあり、注意が必要です。

症状がある方はできるだけ早く医療機関を受診していただき、症状がなくても気になる行為のあった方は、本市が実施する無料・匿名の「HIV・性感染症検査」を、受検してみてください。

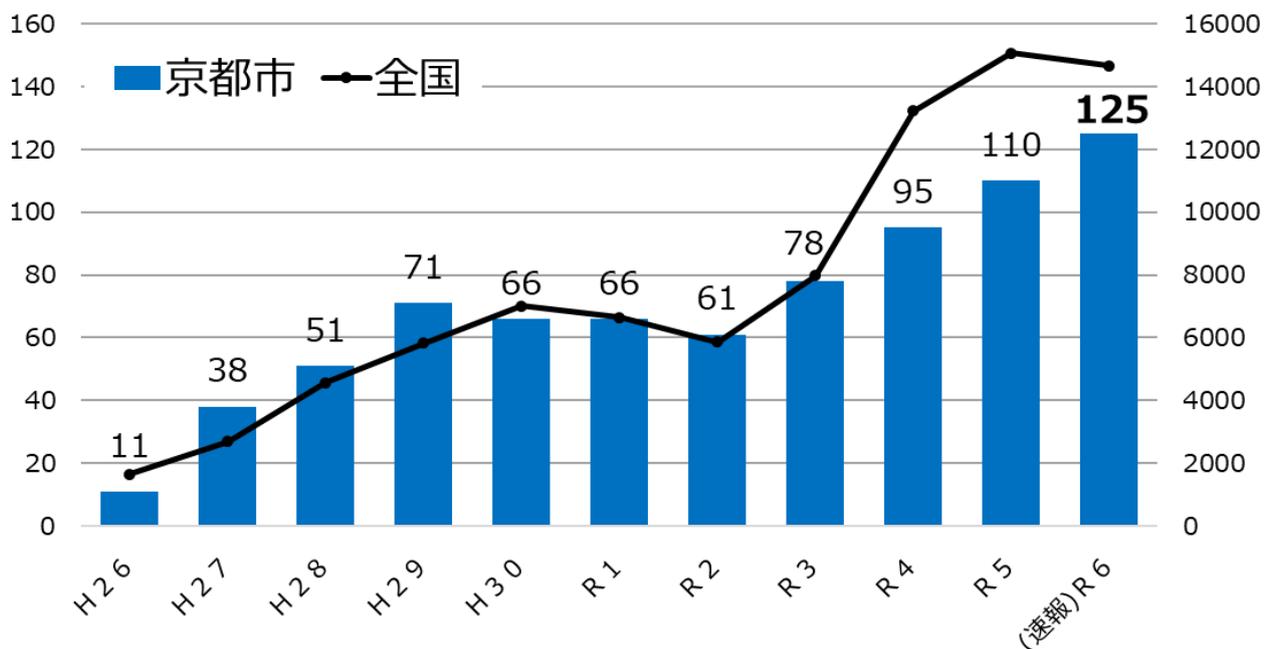
本市における新規梅毒報告数について

1 年次別報告数

令和6年の報告は125件であり、過去最多となった令和5年を上回りました。平成26年からの10年で1.1倍以上、令和元年からの5年で約2倍に増加しています。

年次	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6 (速報値)
京都市	11	38	51	71	66	66	61	78	95	110	125 ^{※1}
全国	1,661	2,690	4,575	5,826	7,007	6,642	5,867	7,978	13,221	15,055	14,663 ^{※1}

※1 令和6年(第52週)時点速報値



2 感染経路別報告数

令和6年の報告（125件）のうち、感染経路が性的接触であるもの（105件）が約8割を占めています。また、性的接触のうち異性間（88件）であるものが約8割を占めています。

	性的接触			針等の鋭利なものの刺入	静注薬物常用	輸血・血液製剤	母子感染	その他（不明含む）	合計
	異性間	同性間※1	不明						
令和2年	46	8	4	1	0	0	0	2	61
令和3年	60	8	5	0	0	0	0	5	78
令和4年	66	7	16※2	0	0	0	0	6	95
令和5年	72	15	10	0	0	0	0	13	110
令和6年	88	9	8	0	0	0	0	20	125

※1 両性間の性的接触も含む。 ※2 経口接触（異性、同性不明）含む。

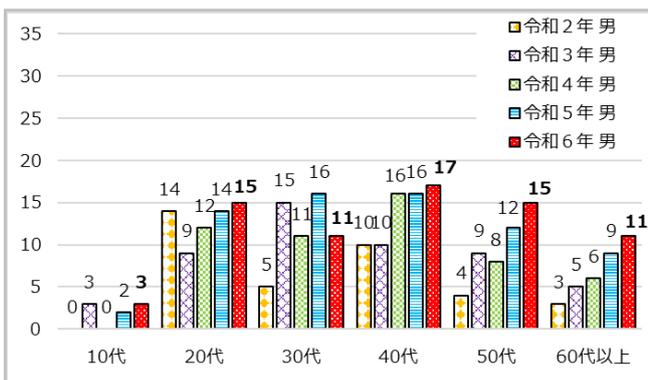
3 男女別・年齢別報告数

男性は、幅広い年代で感染者がみられ、昨年と比較して40代以上の感染者が増加しました。女性は、20代の感染者が最も多く女性の感染者数の半数以上を占めています。妊婦の梅毒感染については4件の報告がありました。また、10代の感染者が9件と男女ともに昨年と比較して増加しています。

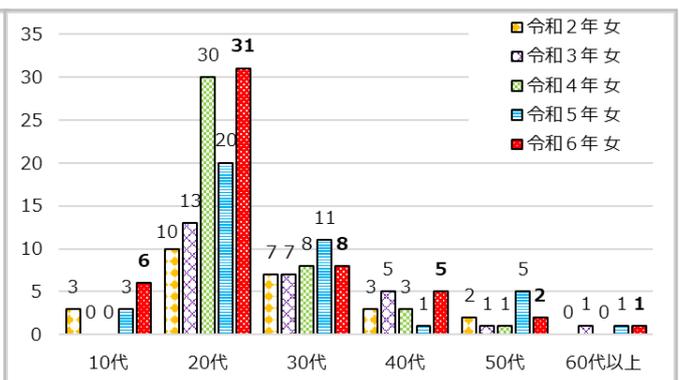
		10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	合計
令和2年	男	0	14	5	10	4	3	36
	女	3	10 (3)	7 (1)	3	2	0	25 (4)
令和3年	男	3	9	15	10	9	5	51
	女	0	13 (1)	7 (1)	5	1	1	27 (2)
令和4年	男	0	12	11	16	8	6	53
	女	0	30 (3)	8	3	1	0	42 (3)
令和5年	男	2	14	16	16	12	9	69
	女	3 (1)	20 (2)	11 (2)	1	5	1	41 (5)
令和6年	男	3	15	11	17	15	11	72
	女	6 (1)	31 (2)	8 (1)	5	2	1	53 (4)

注：（ ）内は、妊婦であった件数（再掲）

<男性>



<女性>



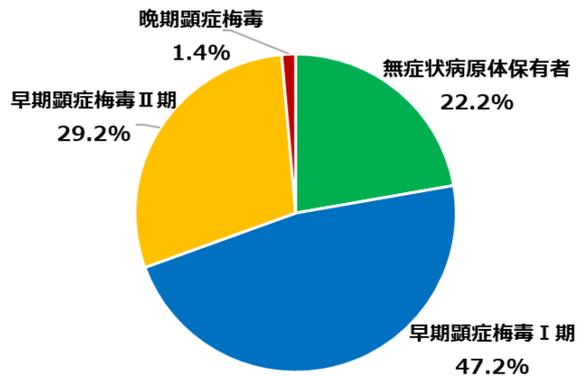
4 病期（梅毒の進行度）別の報告数

男性は早期Ⅰ期での報告が最も多く、女性は早期Ⅱ期での報告が最も多く、女性は感染後時間が経ってから受診・診断される方が多い傾向にあります。

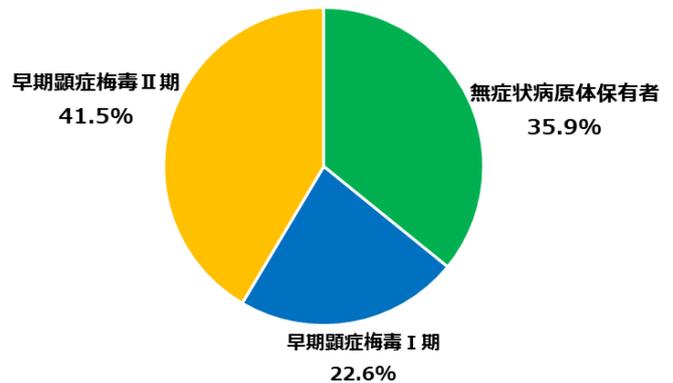
		早期Ⅰ期	早期Ⅱ期	晩期	無症状	合計
令和2年	男	18	10	1	7	36
	女	4	10	0	11	25
令和3年	男	27	16	0	8	51
	女	4	10	0	13	27
令和4年	男	28	14	2	9	53
	女	7	19	1	15	42
令和5年	男	29	24	2	14	69
	女	8	16	0	17	41
令和6年	男	34	21	1	16	72
	女	12	22	0	19	53

令和6年京都市の梅毒感染者の病期別割合

<男性>



<女性>



<病期ごとの症状>

梅毒は病期によって症状の出現する場所や特徴が異なります。症状が消失している期間も治ったわけではなく、病気は進行していきます。放置すると、心臓・血管・脳などに病変が生じ、障害が残る可能性があります。気になる症状があれば、泌尿器科や婦人科、産婦人、皮膚科などを受診してください。また、過去に梅毒に感染したことがある場合でも、再び感染する可能性があります。

【Ⅰ期：感染後約3週】

- ・感染部位の赤いしこりや潰瘍（陰部や口の辺りなど）
- ・感染部位のリンパ節の腫れ



症状消失

【Ⅱ期：感染後数か月】

バラ疹（手のひら、足の裏、身体全体にうっすらと赤い発疹が出ます）



症状消失

【晩期：感染後数年】

- ・皮膚や筋肉、骨などの腫瘍
- ・心臓、血管、脳などの複数の臓器の病変



「梅毒および性感染症に関する研修会」の動画配信について

梅毒が急増している状況を踏まえ、京都市、京都府、京都府医師会の3者共催で、令和6年12月に「梅毒および性感染症に関する研修会」を開催しました。

研修動画は、京都市医療衛生企画課チャンネル（YouTube）で令和7年2月10日（月）から配信予定です。

京都市医療衛生企画課チャンネル（YouTube）

<https://www.youtube.com/channel/UC79KYNoTinNFCukVMUoNgQ>

京都市医療衛生企画課
チャンネル（YouTube）
二次元コード



京都市が実施しているH I V・性感染症検査について（令和6年度）

京都市では、無料・匿名で受けられるH I V・性感染症検査を実施しています。

梅毒の検査は採血で行い、結果は約2週間後に面接にてお伝えします。心配なことがあれば、一度検査を受けてみましょう。検査はパートナーも受検することをお勧めします。

※すでに症状がある方は、医療機関を受診してください。

	平日昼間		平日夜間		土日	
受付時間	毎週 月曜日 (祝日除く)	午後2時～ 午後3時30分	月2回 月曜日 (祝日除く)	午後5時30分 ～午後7時	月2回 土曜日	午後3時15分～ 午後5時15分
					月2回 日曜日	午後2時～ 午後4時
場所	一般財団法人 京都工場保健会 (〒604-8472 京都市中京区西ノ京北壺井町67番地) ※ 無料駐車場有					
予約	【要予約】電話番号：0120-636-040 (京都工場保健会 受付時間：平日午前8時30分～午後4時30分)					
検査項目	H I V、性感染症（梅毒、淋菌、クラミジア）※ 性感染症は単体受検不可					
結果返却	面接にて返却（H I Vは即日、性感染症はおおむね2週間後の検査日）					

京都市情報館「京都市のH I V検査・相談について」

<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000271215.html>

京都市情報館
二次元コード



(参考) 梅毒について

(1) 原因、特徴

梅毒トレポネーマという病原体により引き起こされる感染症で、主にセックスなどの性的接触により、口や性器などの粘膜や皮膚から感染します。オーラルセックス（口腔性交）やアナルセックス（肛門性交）などでも感染します。また、一度治っても再び感染することがあります。

(2) 予防方法

予防方法として、感染部位と粘膜や皮膚が直接接触をしないように、コンドームを使用することが勧められます。ただし、コンドームが覆わない部分の皮膚などでも感染が起こる可能性があるため、コンドームを使用しても、100%予防できるわけではありません。感染しているかどうか心配なときは、検査で確認することができます。

(3) 治療について

処方された抗菌薬（内服薬や注射薬）で治療します。内服期間等は病期により異なり、医師が判断します。病変の部位によっては入院し、点滴で抗菌薬の治療を行うこともあります。医師が治療を終了とするまで、処方薬を確実に服用し続けることが重要です。